

【 2017ユース世界選手権 】

2017年8月8日～8月20日 ジョージア・トビリシ

試合結果報告 8月11日 (金)

J P N	VS	GER(ドイツ)
9	前半	22
9	後半	12
18	合計	34

個人得点

名前	前半	後半	7MTC		合計
高野 颯太	0	0			0
末岡 巧美	0	0			0
阿部 奎太	1	1			2
部井久アダム勇樹	2	3			5
服部 将成	0	0			0
徳田 廉之助	4	1			5
村木 幸輝	1	1			2
山田 翔騎	0	1			1
堀田 陽大					0
矢野 世人	1	1			2
寺島 健太	0	1			1
中村 光					0
本田 悠也	0	0			0
蔦屋 大雅	0	0			0
川崎 駿	0	0			0
戸井 凱音	0	0			0
					0
					0
合計	9	9	0	0	18

戦評

予選リーグ3戦目はハンドボール大国ドイツが相手。NO.5部井久、No.13矢野、NO.24蔦屋3名の選手変更を行い、攻守の選択肢を増やした日本。開始早々No.5部井久のミドルが決まる。ディフェンスでもゴール前に密集をかけてドイツに単純な突破をさせない互角の展開に持ち込む。しかしドイツは攻撃の狙いをアウトサイドへ徹底する。日本のディフェンス陣をゴール前中央に集めた後、両ウイングにボールを散らして弱点を突く攻撃を展開。ここをしのぎたかった日本だが立て続けにウイングシュートを叩き込まれると、嫌なムードが攻撃にも伝染。ミスからのターンオーバーで次々とノーマークシュートを浴び5連続失点と一気にリードを許す。なんとか打開策を見出したい日本だが、その後も10分間ノーゴールと厳しい状況へ追い込まれる。再び9連続失点してしまい、9-22で前半終了。

「戦術よりも戦う姿勢」そんな言葉がロッカールームに響いた後、13点差を追う日本の後半戦が始まった。出だしからフットワーク良く相手のオフェンスをはじき返してターンオーバーを量産。

ようやく持ち味の「人数をかけた1次、2次速攻」が出始める。No.9村木、No.7徳田らが立て続けにゴールを決めて3連取と追い上げムードに。すかさずドイツはセーフティファーストでタイムアウトを要求。日本は良い流れを何とか維持したかったが、落ち着きを取り戻したドイツに再びゲームを支配される。精神的に厳しい状態でのゲームとなったが、次戦以降を考え、全員が集中力を切らさず戦いきった点は評価に値する。34対18と大差はついたが、試合終了のホイッスルがなった瞬間から次の刊戦へ向けての準備はすでに始まっている。

報告記入者 :

吉村 晃